



NPO法人 かながわ外国人すまいサポートセンター

ニュースレター No.39

“すまセン”の窓口ではスタッフが10ヶ国語で相談を受け付けています。
アパート探しの内見や契約後の問題発生など必要に応じて通訳を派遣します。

お気軽にお尋ねください。

ごあいさつ

紅葉の季節もつかの間、冷たい風が吹き抜けるようになりました。今夏は史上最高の暑さに見舞われ、これはまたコロナと言う災いから逃れる機となりました。

これまで来日できなかった留学生や労働者たちが再び日本にやってくるようになっただけでなく、ウクライナを始めとするさまざまな国から諍いや紛争、戦争を背負って難民として渡ってくる方も増えました。

すまセンには住まいを求め、毎日多くの人たちが訪ねて来ます。相談は深刻な問題や課題を抱えた複合的なものがほとんどで、制度の狭間にある人たちを如何に自立の道に進ませることができるのか、スタッフ及び理事一同、頭を悩ませながら問題解決に努めています。

すまセンでは常に不動産業界団体、行政、司法関係者、YMCAや他NPOと連携することを基本としますが、その他に大家さんや個人の支援も私たちの原動力になっています。今年もフードパントリーの利用も多く、まだまだコロナ前の生活に戻るのには厳しいとみています。住まい、生活、食料とすまセンの活動は留まることをしりません。そんな時こそ、会員始め皆さんの支援や協力が私たちの大きな力になります。

2024年は明るい希望ある年にしたいと思います。災いの年月を経て得た経験や連携を更に活かし、より良い活動を推進していきたいと思います。

かながわ外国人すまいサポートセンター理事長 裴安



かながわ住宅確保要配慮者居住支援セミナー2023 in川崎

10月から12月にかけて、NPO法人横浜市まちづくりセンター主催のかながわ住宅確保要配慮者居住支援フォーラムが開催されました。

第1部の居住支援実務者によるトークセッションでは、医療ソーシャルワーカー、障害者自立支援センターと共に当センターがパネリストとして、居住支援の活動現場での業務内容や業務で困っていることについてお話しました。第2部では、第1部で学んだことを活かした実務を想定したグループワークショップが実施されました。パネリストたちから物件探しの注意点を聞いた後、賃貸物件探しを行いました。グループではお互いの立場から様々な意見を出しあい、有意義なワークショップになりました。

フォーラム出席者の皆さんからは、『外国人の実情が分かった』、『福祉局や当事者である障がい者の話が聞けて良かった』、『職種による視点の違いを知ることができた』、『選定された物件がグループごとに全く違いびっくりした。物件選びの難しさを感じた』等の感想をいただき、居住支援の実情を知ってもらうことができました。

住宅確保要配慮者居住支援業務を円滑に行うための不動産従事者と福祉関係者、居住支援実務者の協力体制の関係構築を図るフォーラムとなりました。



「すまセン」訪問記 ～汗と涙の外国人住居支援活動～

糸満市議会議員・浦崎暁

横浜は、言わずと知れた「国際都市」であり、多国籍文化の中心地といっても過言ではない。その横浜で外国人の方々の住まいを支援する「特定非営利活動法人・かながわ外国人すまいサポートセンター」の門戸をたたいた。十月も中旬なのに、気温は沖縄と同じくらい暑い日だった。

沖縄から遠路はるばる視察に訪れた理由は、地元においても外国人労働者や留学生が急増していて、住居確保の問題が浮上しているためだ。

長年、外国人の住居問題に取り組み実績を上げている団体から学び、行政の政策にも活かしていきたいとの目論見である。議会や行政ができることはきっとあるはずだ。

丁度、視察の出発日、『沖縄タイムス』で外国人の入居拒否の問題が社会面トップで報じられていた。早速、空港のコンビニで新聞を購入。見出しには「外国人入居ノ一相次ぐ」「所有者近隣トラブル心配」「NGO理解深める場必要」とのことだ。

記事は、ネパール人女性が出産を機にファミリータイプの部屋を探していたが、なかなか見つからず困難を極めていることが報じられている。

外国人というだけで住まいの権利が脅かされているのだ。

●団体への勝手な思い込みの「レッテル」がはがされていく

当該団体が「国際都市・横浜」で活動しているということで、都会的ハイセンスな雰囲気の中、ビジネスライクな取り組みをしているとの真に勝手な思い込みがあった(話を聞くうちにその「レッテル」が剥がされていく)。テーブルがある部屋に案内され、お二人の女性職員の方が丁寧に應對してくれた。聞きたいことは山ほどあったが限られた時間内である。団体設立の経緯、先に触れた沖縄県内の事例を示しつつ、諸活動について伺った。

外国人の居住問題は、国籍や在留資格、職種、家族構成などの要素が複雑にからみ合い、また、仲介業者や大家さんの認識等、簡単ではない。そのことは、自らの経験からも少なからずわかっていたが、これらの問題に直面し、現場で活躍する方々からの話は、この上ない勉強である。団体の活動スタイルは、困窮する当事者に徹底して寄り添い、仲介業者とも緊密に連携し、時には大家さんの自宅にも足繁く通い粘り強く交渉をするという。そして、様々な苦労話も聞いた。

対話を重ねるごとに、「ビジネスライクでスマートに案件を処理しています。ウフフ」という根も葉もない勝手な「レッテル」は、一枚一枚きれいに剥がされていくのだった。

そして、その活動は言うなれば、「当事者と共に泣き笑い。汗と涙の活動」であり「情熱の活動」といっても過言ではない。

知識だけではなく、職員の方々の外国人支援に対する「情熱」を受け止め元気をもってしまったのである。

「すまセン」は、行政とも積極的につながり、地域の多文化共生の政策推進にも大きく貢献しているという。

沖縄県内でも、外国人の住まいの問題がようやく議論されるようになった。「すまセン」から学んだことや「情熱」は、行政や地域に届けていかなければならない。



◆連載◆ コロナを通して見えたもの②

在米20年以上の友人は、小児難治性てんかんをはじめ、発達障がい、自閉症、脳性麻痺、筋ジストロフィーなど脳と神経由来の病気が専門の小児神経内科医として働いています。患者さんの多くは障がいがあったため、外出する習慣もなく、ロックダウン中も普段と変わらない生活だったようです。ただ、中には親御さんがコロナに感染して亡くなってしまった子も何人かいたそうです。もともと親御さんに基礎疾患があったため、もしもの時に備えていた家庭が殆どで、特別混乱することもなく、離婚して同居していなかった親や祖父母に引き取られたそうです。

また、重度障害児の訪問看護師さんに引き取られたという稀なケースもありました。基礎疾患のある親御さんに代わり、普段からこの訪問看護師さんが障がいのあるお子さんを病院に連れて行ったりと、友人のような信頼関係があったそうです。このケースは離婚した父親が親権を維持したまま、この訪問看護師さんは法定後見人となったそうです。

世界の至る所で戦争や紛争が絶えない昨今、この様に他者を愛し慈しむ気持ちが、アフターコロナを支えていくのではないのでしょうか？！

すまセンの相談件数 (2023年4月～11月まで)

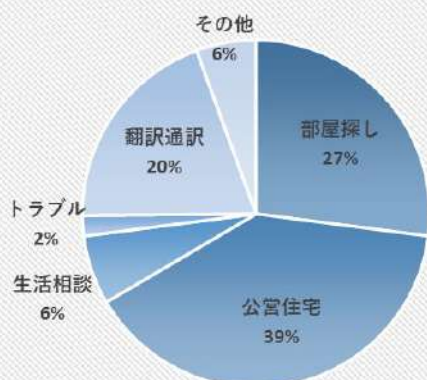
◆2023年度の相談件数 (単位: 件)

2023年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
新規	220	88	74	62	38	54	81	65	682
継続	677	157	144	111	81	98	67	38	1373
合計	897	245	218	173	119	152	148	103	2055

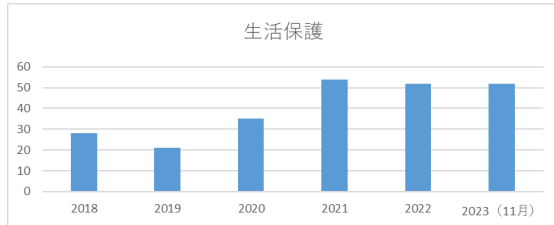
*4月には、前年度から継続している相談についても新規の番号をとるため、必然的に相談件数が大きくなっている。

◆相談の内訳 ～相談内容～

相談内容別 (2023年4月～11月まで)



生活保護



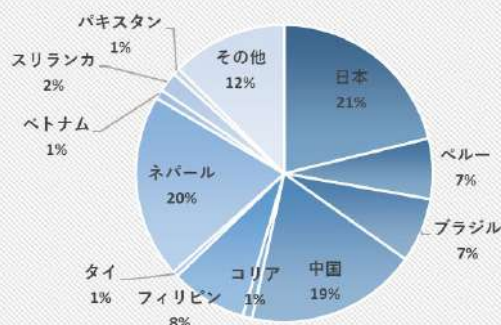
2023年4月～11月までの相談件数を出してみると、左図のようになる。昨年度の集計では約60%が部屋探し・公営住宅だったが、今年はすでに70%近い。特に公営住宅の増加は継続しており、申し込む相談者が増えていることと、当選後の手続き（二次審査や契約などのサポート）が増えてきていることも要因の一つと考えられる。

また、生活相談は6%と少なく見えるが、最初の相談内容が部屋探しや公営住宅であっても、時間の経過とともに、生活相談にシフト

することが多くなっている。左にあるグラフからも見て取れるように、生活保護受給者の数は年々増加傾向にあり、今年度は11月時点で昨年度一年間の数とほぼ同じになっている。

◆相談の内訳 ～国籍別・言語別～

国籍別 相談件数 2023年4月～11月

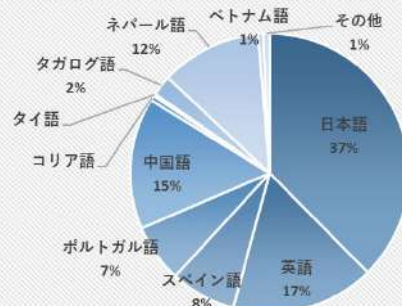


言語別でもネパール語が増えており、その相談内容の多くは公営住宅の申し込みで、これも公営住宅の件数が増えている要因の1つであると考えられる。

その他の国籍を持つ相談者も増加傾向にあり、その他の中に約80を超える国籍が含まれ、多国籍化が進んでいる。

国籍別で相談者を見てみると、一番多いのは日本国籍で、外国に繋がりのある日本国籍の相談者や、翻訳通訳を依頼する日本人も多いため、このような結果になっている。また、ネパール国籍の相談者が増えているため、今年度はすでにネパールが2番目に浮上している。

言語別 相談件数 (2023年4月～11月)



★2023年度 会費を納めてくださった方々★

(順不同、敬称略)

<団体>

横浜華僑総会 在日本大韓民国民団
 公益財団法人 日本賃貸住宅管理協会
 公益社団法人 神奈川県宅地建物取引業協会
 公益社団法人 神奈川県宅地建物取引業協会 川崎南支部
 一般社団法人 全国賃貸不動産管理業協会
 公益社団法人 全日本不動産協会
 特定非営利活動法人 ワーカーズコープ
 公益財団法人 大和市国際化協会

<法人>

株式会社 おかだハウジング 豊一管財株式会社
 徳永リアルエステート(株) 湘南リビングセンター株式会社
 有限会社 第一産業 株式会社 杉浦商事 株式会社 むげん
 株式会社 イチイ 株式会社 石川商事 株式会社 昌栄
 有限会社 エスク エス・ケーホーム(株) 徳増不動産株式会社
 株式会社 秋津不動産 オーキッド株式会社
 株式会社 川崎中央プランナー 有限会社 寿不動産
 株式会社 チェリッシュ (有) セントラルホームズ
 株式会社 クレア 株式会社 アイホーム 株式会社 水島商事
 株式会社 日本エイジェント 居住支援法人 川崎ロイヤル株式会社
 (有) 松中一級建築士事務所 (有) ラデイアン・ワークス

* 2023年11月末現在、漏れがある場合は事務局までご一報ください。

<個人 正会員>

竹口 秀夫 水田 秀子 西村 明夫
 星野 毅 三浦 保之 片岡 雄介
 安松 肇 山田 貴夫 木下 正和
 邊 佳枝 金井 信高 稲村 厚
 長田 誠 月出 正弘 鳥山 洋
 裴 安 柳 晴実 柳原 絵里子
 森川 洋子 阿部 孝子 高橋 修
 長澤 勲 高村 文子 永井 愛子
 孔 琦

<個人 賛助会員>

山成 健治 小儀 晃 野村 武夫
 今泉 好夫 高原 晶子 明星 圭介
 ファム・ルー・アンジー 佐々木 利和
 磯田 ニーダ

<法人・団体 賛助会員>

有限会社 東郊住宅社
 中高年事業団やまて企業組合

いつもありがとうございます！
 これからもがんばります！

翻訳・通訳業務

◆文書の翻訳を有料で行います

❖ 翻訳料金・納期・支払い方法、対応可能な翻訳文書については、
 翻訳通訳担当(火曜日・金曜日)にお問い合わせください。

《対応可能言語》

中国語・インドネシア語・ポルトガル語
 タガログ語・韓国朝鮮語・ネパール語
 ベトナム語・英語・スペイン語・タイ語
 カンボジア語・ラオス語など

《翻訳可能文書》

戸籍謄本・改製原戸籍・住民票・出生届
 結婚届・結婚受理証明書・出生受理証明書
 海外機関発行の独身証明書・出生証明書
 在職証明書・納税証明書・課税証明書など

◆一般通訳を有料で行います

❖ 役所・年金事務所・不動産店・弁護士司法書士事務所・福祉事務所等
 ❖ 詳細については、翻訳通訳担当(火曜日・金曜日)にお問い合わせください。

アクセス



JR根岸線 関内駅南口より
 徒歩 10分
 市営地下鉄ブルーライン 関内駅
 出口1番より徒歩 5分
 みなとみらい線 日本大通り駅
 より徒歩 5分

* 横浜スタジアム向かい

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7
 横浜 YMCA 2階
 Tel: (045) 228-1752
 Fax: (045) 228-1768
 URL: <http://www.sumasen.com/>
 Mail: sumai.sc@sumasen.com

ホームページも
 ぜひご覧ください！



編集後記

晩秋のころ、毎年東京で開催される東京国際映画祭、フィルメックスという映画祭にて、今年はフィリピンの作品2本、タイの作品を1本鑑賞した。特に今回印象に残ったのは、タイの監督の作品で、70年代に起こったタイの学生運動を題材にした作品。女性監督が学生運動家にインタビューをするという形で始まる作品だった。観ているうちに空間がゆがんでいくような不思議な作品だった。フィリピンの作品は、10年ほど前に制作された、イスラエルで在留資格について悩むフィリピンからの移民の話だった。オールイスラエルロケで作成されており、フィリピンの人々の言語能力の高さ、適応力の高さを感じさせる作品だった。(A・N)